



漫談家と共產主義者

東京の一新聞が名古屋の新開經營者に依つて買収されたデス、そこで東京の方から一漫談家を名古屋から一藝妓を選出したデス、此兩人がモダン膝栗毛と自稱して東京日本橋を自動車で出發し伊勢參宮旅行を始めたデス、處が到る處で滑稽と漫談で大衆を洪笑爆笑洪笑に誘ふておると云ふことデス、本家本元の膝栗毛の著作者十返舎一九は彼れの腹のドン底に秘められておつた思想、夫れには諷刺と滑稽とを保菌しておつたデス、夫れが彌次喜太の東海道旅行記となつたから其膝栗毛を讀むと自から笑が湧き起るデス、今次のモダン膝栗毛

法 令

の記事はおかしいことはおかしいデス、滑稽は滑稽デス、しかし笑はせんが爲めの滑稽とも思はるゝデス、職業が強調せられ彼氏彼女等の名披露とガマガチを豊富にする意識からの所作事とも思はるゝ感がするデス、新聞賣捌上から見れば中々奇想的計畫で絶好のチンドン屋を雇ひ入れたものだとさんたんせざるを得ないデス、國家は赤字財政で苦んでおる、一般の工業者は資金難に悩んで居る、個人は生活不安に襲はれておる、而かも人類一般が人生とは何ぞやと云ふ難問題に對し無意識に有意識に懊惱しておるデス、然るに斯の諧謔滑稽事を企てゝ以て新聞販賣擴張の具と爲すは如何な事デス、今刑務所に在つて書齋に還元すと聊

注 意
本欄は讀者諸氏の利用に提供す、治安と風俗とを害し又は人位攻撃に涉らざる限り奇想天外的の投稿を望む、一文四百字身にて取捨は編輯子に一任、原稿は道路の改良編輯部宛のこと。

か思想の轉向を聲明した川上博士が曾て吾人に告げて曰く、「資本主義者に依つて苦痛に陥らしめられた吾々人類の現狀を思ふとき吾々は眞剣味でなければならぬ、其處には笑ふべき何物もない、笑は實に人間の罪惡である」とヤコブは曰く「再曹の笑を悲歎に易へよ」と人間社會は笑ふべきか悲しむべきか、笑ふて暮らすも一生、泣いて暮らすも一生デス。借問す結局はチンドン屋萬歳デスカ。(史朗)

舗道の上を

わたしが毎日毎日期に夕に靴と親しめておるのはアスファルトの舗道であるのよ、夫れが此頃の炎暑の爲め丸でツキタテのお

餅の様で氣持がよくありませんのよ、白い靴が沸きかへるアスファルトで眞黒になりはせぬかと思はれて心配するのよ、男子達はどう思はれますか、市の土木課の方よ何んとか改良の方法はないものでせうか、道路改良會の方々よ何とか係りの方へ注意を加へて下さらない？

一夕お友達に誘はれてギンブつたのよ、近視なわたしはあの帯の幅程しかない歩道面に白い靴、黒い靴、赤い靴、カ、トの細高い靴、陸軍靴、千代田草履、白足袋、紺足袋、肉色、卵色さま／＼のストツキン、二重靴下、ワネ足、ソリ足、ヒヨロナガ足、大根足、燕足など百鬼横行を見せられたが其他に紙クズ、マツチ空箱、包紙、ハンケチ、廣告ビラ紙、活動ビラ、ナフキン紙、ラブレター等々それはいろ／＼のものが撒き散らされてあるのよ、何んと舗道と云ふものゝ混雜しておることか、ブカ路面とゴミ箱をヒツクリ返した様な路面と是れが大東京の誇り得る道路であるるか夫れでは

第二のヒルが来て何んと冷笑するでしやう、舗道の上で靴先を見つめて歩きました感想をかきましてご参考にと。(富美子)

日本精神のとまどひ

日本精神とは汽車、電車、飛行機、ラデオ、電信、電話、カフエ、ダンス、ネオンサインの輸入されない以前のものが純粹の日本精神であつて、それらの時代生活に伴ふところの機械文明渡來後の國民思想は所謂日本精神でないと云ふことであつて見れば日本精神を作興する爲めにあらゆる文明を拒否しなければならぬこととなつてくると論じて居る者があるが實にその通りである、何んでも彼でも外國に於て發達し人類文化の資料乃至力となつておるものを受け入るゝことが日本建國の精神に反するものであると信ずるは如何なる曲事であらう、我國大化の革新を我精華と誇る日本精神家があるが其當時の革新思想は支那よりの輸入思想乃至制度であつた、佛教東洋史を研

究することに依つて思想の危險性に陥るを防止せんとする日本精神教育家がある、佛教は日本固有の宗教であるか否中大兄中臣鎌足が苦心したる處那邊に存したるかを思ふときに佛教が外教であつた事は明白となるのである、されば日本建國の精神とは我國民が神武東征當時に懷抱した精神に立ち歸ることを云ふのであるか、大伴氏の遠視道臣命大來日部を帥めて密策を奉りて能く諷歌倒ソウカダシ語を以て妖を掃蕩へり。と傳説や口碑に依て活き何等經濟組織なき境涯に生くる外なき時代に還元しなければ建國精神とはなり得ざるか、漠然たる思想轉向、其核心を把握せざる思想涵養策、手段を撰ぼざる教育策、無批判的阿諛迎合を是れ能事なりとする國民よ爾は何處に行かんとするか。(養老仙士)

東京市電のわすれ

物は何

東京市電の電車とバスの中の遺れ物は種

々の品で其數量も決して少なくない、古物商で此遺物を入札で買ひ受けて居る者は一山三文であるから莫大な利益を得ておると傳へらるる、だが夫れは餘程熟練を経たものでなければそうは行かぬらしい、處で乗客と云ふものは餘程わずれ性に富んだ動物と見えて洋傘、ステッキ、買物、帽子、などザラであると云ふことで市電の遺失物係員は遺れ物を檢べる毎に笑ひ草となるものが少くないと言つて居る、サモソウである、笑ふことをやめられよ、東京市電は大なる遺れ物をしておることを、電車經營でも六百萬圓からの赤字であるとこぼしておるが路面電車の行詰りは夙に推測し得たものでなければならぬ、人類の生活状態と人間の要求は變化なきが如くして實は大に變化しつゝあるのである、而かもそれが急速度を以て。故に路面交通機關でもバスやハイヤーが劇増するではないか、故に路面電車の没落し行くは當然の理である、東京市電が漸く關東震災後ポツ／＼バスを運

轉し始めたのは如何にも目先のきかぬにも程があると或る外人は評して居つた、而して折角權利を得た地下鐵Ⅱ池袋東京驛間新宿東京驛間Ⅱを民間に讓渡したが民間でもまだ着手しない、夫れ位なら市民交通の便を忘れずに市電が直督すべきである、夫れが市内交通機關の統制の一であるのみでなく漸時縮まり行く路面電車の救済策だ路面の影を地下の姿に取替ることに依つて市電の經營は生命の更生が生ずる、路面電車を何時までも維持せんとするは中氣病患者を養つて居る様なものである、曩きにバス經營で遅れを取り今また地下鐵で逡巡して居る。畢竟は市民を遺れられておるに因るのである、立石局長健在なりや否や斷じて行へば鬼神も之れを避くとかや市會議員や監督官廳何ぞ恐るるに足らんやである。

(Kの生)

文化生活の疾病

某日の朝のラツジュアワー、日比谷十字

路に向つて芝の方面から疾走し來つた一臺の幌型自動車があつた、何を考へたか車體を三信ビルの方向に轉し電車軌道に乗り入れて暫時停車した、巢鴨行の電車は營業線に乗入ることの出来ないでカーブの處で車體を右に斜めに停車した。兩車ダンマリの光景、電車乗客は焦燥を始めたが自動車は左に轉向した、交通巡查は準の如く駈け來たか車中には實業家らしい紳士が居つた勇敢な巡查は丁重な態度で運轉手免許狀を檢査したのである。文化の利器自動車の運轉手は餘程注意してもらわなければならぬ、幸に何等被害なしと巡查は報告したのであらうが精神的被害は少なくない、自動車の事故は文化生活の一疾病である、此疾病は其病源が殆んど運轉手に在ることは事實で即ち第一自動車の前方中心に對し注意を怠つた場合で此場合は時に相手方の方に不注意があることが少なくない横丁から飛び出す自轉車の小僧、側面から走り來る幼児、路にひる寢して居る犬のルンペン等の責任も

あるが其多數は自動車の運轉手の不注意に因るのである第二はスピードから生ずる事故である、とかく人間は競争心の強いもので前車に優先すると何んとなく心持ちのよいものである夫れで制限を無視しての疾走之れが事故の原因となることは少なくない第三はハンドルの操縦を誤つた場合である、疾走するときカーブを切るとき前方の障害物を避けんが爲めに、夫れが運轉手に狼狽心を起さしむるとき、ハンドに手をかけて全力を注げば車は意外の廻轉をする、安全位地に在る者すら車にキツスせらる、斯の如き場合には手と足とを働かず様沈着にせねばならぬ、手でハンドル、足でブレーキ又はクラッチを踏まねばならぬ、セーフテゾーンの標示器ソレが古レールの柱で二尺以上もコンクリートの土中に埋めあるのを衝突破倒するは、トラックの運轉手か前記第一第二第三の病源を三重奏するに在るは争はれない事實である、運轉手諸子よ諸子の注意一つで此疾病を取除かるゝ、人助けだ注意に注意せよ。(ヒロシ)

農村道路論

資本主義經濟組織の下に於ては都市と農村との對立關係は益々激化し、都市は發展し、農村は衰微するのが原則である。我國の都市と農村もこの原則に加ふるに明治政府の急進的中央集權の強行軍に伴ふて跛行的に發達して來た、従つて今日の我國農村の衰微は實にその極に達してゐる。斯く衰微せる農村を都市のそれまで引上げることが我國の最大急務である。一切の改革は道路の改良に始まるとは歴史の立證するところである。大震災災後の東京市の道路網の完備がこの間の事情を雄辯に物語つてゐる。農村に於ても亦然りである。然るに我國農村の道路は如何、舊封建時代の原始的形態のままに放置され、快速力を有する自動車やトラックの破壊するに任せてゐるではないか。かくては農産物の搬出手段は奪はれ、農村は解消するであらふ。故に吾人は非常時的應急策としての農村振興土木事業をして瀾縫的補修工事たらしめずして、國家百年の大計たらしめよと絶叫する所以も亦こゝに存するのである。(眞生)

女ばかりの世界

英國ケンシントンに飛行機の部分品、汽船の裝具、ラヂオセット、レザーの齒、自動車の聯軸機、靴下製造機肉切機其他專賣特許の蠅捕器等を製作しておる工場がある、其處には男子は一人も居らず場長以下技師職工まで悉皆女子であつて發明の研究を爲て現に特許を得たものもある、又高いシャフトの上に登つて油を注ぐ輕業の仕事も皆女子の手でやつて居る一言すれば女子王國である實に二十人の女技師は夫れ分擔して妙齡の女職工を指揮監督しておつて絶対に男の手を借らないのである、日本には勿論世界に珍らしい工場で女子の爲めに氣焔を擧げて居るのである。處か南洋では妻は夫から自由に解放せられてゐる、妻は遊ぶも働くも勝手で野の仕事、山の仕事、臺所の仕事など生殺與奪の權は女にある、出稼に行くも鳥の匡救事業である道路の修繕工夫となるのも妻の命令に依るので實力が女に在る、男は絶対に女に頭が上がらぬ、女尊男卑で南洋は女の天國だ、行けよ南洋へ、よわきものよ汝の名は男也。(眞生)